

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和3年度 全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技	派遣期日	令和3年7月24日～7月27日
報告者	長谷川悠貴	派遣先	新潟県長岡市

1 大会概要

大会名称	令和3年度 全国高等学校総合体育大会	大会期間	令和3年7月25日～7月30日
大会概要	高体連の規定に基づく各都道府県代表の高校チームによるトーナメント制の大会		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和3年7月25日	会場	アオーレ長岡
審判クルー	CC: 長谷川悠貴 U1:白川直弘（石川） U2:石嶺良方（沖縄）		
担当試合	東海大学付属諏訪（長野） VS 県立城東（徳島）		
試合内容	高さ、フィジカルともに勝る東海大諏訪が終始ゲームをリードする展開。大差のついたゲームとなったが、両チームとも力を出しあう好ゲームであった。		

日程	令和3年7月26日	会場	アオーレ長岡
審判クルー	CC:長谷川悠貴 U1:岩崎晋也（北海道） U2:山田隆介（富山）		
担当試合	福岡大学付属大濠（福岡） VS 県立能代科学技術（秋田）		
試合内容	インターハイは久々の出場となる大濠と今年度校名変更となった能代の注目の1戦となった。前半は拮抗した展開となったが、終盤地力を発揮した大濠が安定したゲーム運びで勝利した。		

日程	令和3年7月27日	会場	アオーレ長岡
審判クルー	CC:久米克弥（秋田） U1:高野直人（新潟） U2:長谷川悠貴		
担当試合	桐光学園（神奈川） VS 北陸学院（石川）		
試合内容	ベスト8をかけた1戦。コロナ案件もあり、直前の割当変更となった。高さの差はなかったが、体の当たりに分があった北陸学院が安定したディフェンスとリバウンドでリードを広げ、勝利する展開となった。		

日程	令和 年 月 日	会場	
審判クルー	CC:	U1:	U2:
担当試合	VS		
試合内容			

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●ベーシックの重要性

今回、全国大会で初めての CC や 3 回戦を経験させて頂いたことを通して、ベーシックの重要性を再認識しました。接触、走力、戦術面等全ての面で高いレベルのゲームが展開されること、また、一緒にクルーを組んだことがない方とレフリーをすること、IH では“いつもとは違う”不安定な要素が多いです。その中で 1 ゲームを担当し、ゲームを進めていく中で頼りになるのは、「ベーシック」に尽きると思いました。メカニクスやプレーコーリング、ルールの理解等に関して、しっかりとした理解のもとで徹底した実践力を持っていることが最大の武器になるのだと実感しました。これらは常日頃から自分自身で準備できる部分でもありますので、香川 IH に向けて準備していきたいと思います。

●走力・体調管理

今回は男子日程の派遣でしたので、3 日間連続で 1 ゲームずつ担当しました。全国大会の男子高校生となると全カテゴリーの中でも、ゲーム展開の速さやポジション数は最高レベルなのではないかと思っています。高校男子の走力に負けずに 40 分間走り切れる体力、ブレイクに対応してアジャストするスピードは絶対に必要な条件であると感じます。

また、1 ゲームだけでなく連日、連続の試合となると大会期間を万全の体調で過ごしていく準備も重要であると思います。コロナウイルス感染症の事もありますし、体調管理の方法やコンディション調整などレフリーとして気を遣わなければならないと感じました。

●トラベリング

今回大会では、「トラベリング」の判定が重点項目として挙げられました。PGC で項目として追加することが審判会議でも挙げられ、初日終了後の有澤氏からの連絡では、クリップと再度トラベリングの判定についての意識共有がされるなど、全国的にも“明らかなトラベリング”の判定に対する取り組みがなされようとしていることを実感しました。香川県内でのトラベリングの判定は、上級の方を中心に情報共有されている部分でもあります。その取り組みは引き続き意識的に継続していかなくてはならない部分であると感じました。

特に両足が地面についた状態でボールを保持するケースについては、引き続いてオーバーステップとなるケースも多く、注意して判定をしていくことが重要だと思います。PGC で確認後、1 Q から勇気をもって決断をし、クルーでテンポセットを行うことが必要だと思いました。

●地元審判員の方々について

今回は新潟県開催でしたが、地元の審判員の方々の事前の連絡から宿舎での対応や会場への輸送業務、会場での検温・受付・消毒業務など多くの面でサポートをしていただいで無事に全日程を終えることができました。私自身は派遣審判員としてゲームを担当させていただくのみでしたが、こうした地元審判員の方々のサポートがあって、このような状況下でも審判活動ができたことを忘れないようにしたいです。

4 その他

来年度には香川 IH が控えております。今回の経験を審判・運営の両面で活かして行きたいと思います。今回の派遣に際しましては県協会から補助を頂き、貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。